

東海第二発電所 審査資料	
資料番号	CVRD-1-004 改0
提出年月日	2021年8月25日

東海第二発電所 圧縮減容装置の導入に係る 固体廃棄物貯蔵庫の運用管理について

2021年 8月 27日
日本原子力発電株式会社

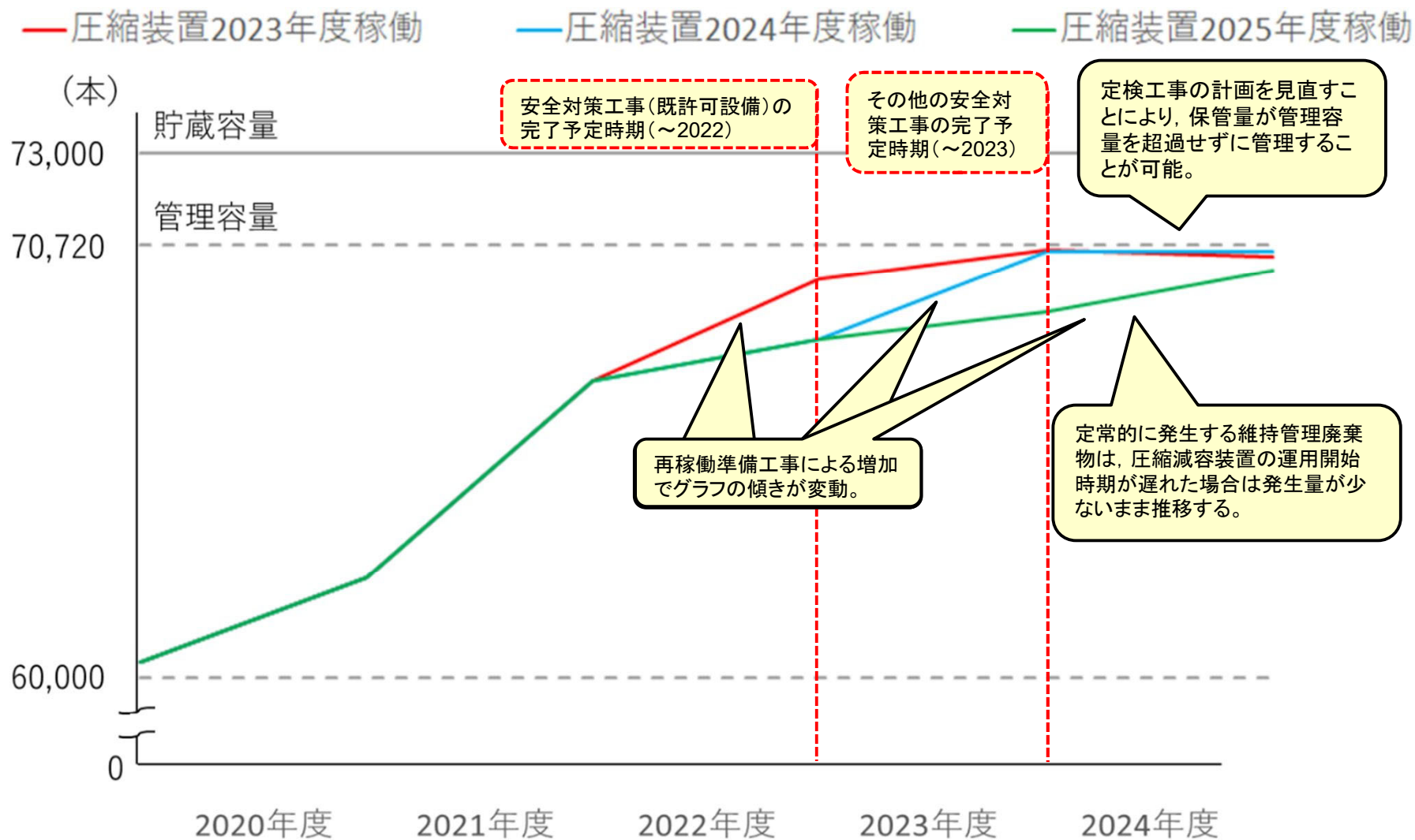
圧縮減容装置の導入に係る固体廃棄物貯蔵庫の運用管理について(1/2)



- 東海第二発電所における放射性固体廃棄物の発生・減少の要因と状況は下表の通り。また、今後の東海第二発電所の固体廃棄物貯蔵庫の保管量推移予測は次頁のグラフの通り。
- **発生のカテゴリ①**は、**工事完了後は廃棄物が発生しない**。
- **発生のカテゴリ②**は、**定検工事完了後は発生せず**、また安全性に影響を与えない範囲で**実施時期を見直すことが可能**である。
- **発生のカテゴリ③**は、**定常的に発生**するものの、圧縮減容装置の運用開始が遅れる場合はプラント停止状態が継続しているため、**プラント運転中と比べ発生量が減少**する。
- したがって、圧縮減容装置の運用開始が遅れたとしても廃棄物は増加せず、仮に増加しても定検計画を見直すことにより増加量を抑えることができるため、今後も**保管量を管理容量以下で運用することは可能な見通し**である。

	カテゴリ	要因	発生・減少の状況
発生	①	安全対策工事	防潮堤等のプラントの安全性を高めるための施設設置工事に伴い発生。 <u>工事完了後は発生しない。</u>
		再稼働準備工事	プラント再稼働に当たり行う設備の準備・点検に伴い発生。 <u>プラント再稼働の直前に実施し、その前後では発生しない。</u>
	②	定検工事	原子炉定検において実施する点検・設備更新等により、 <u>定検時のみ発生</u> 。安全性に影響を与えない範囲で 実施時期を見直すことが可能 。
	③	定常的に発生	維持管理作業に伴い実施する定期的な点検等により発生するが、 <u>プラント停止期間は発生量は少なく、プラント運転中は多くなる。</u>
減少	-	可燃物の焼却	発電所内の雑固体焼却設備で焼却。
		熔融処理	発電所内の雑固体減容処理設備(高周波熔融炉)で減容。
		埋設施設への搬出	六ヶ所低レベル放射性廃棄物埋設センターへ搬出。
		圧縮処理【本申請】	発電所内の圧縮減容装置で減容。
		L3埋設施設への処分等【今後計画】	現在審査中のL3埋設施設に埋設処分等を実施。

圧縮減容装置の導入に係る固体廃棄物貯蔵庫の運用管理について(2/2)



注)2020年度末までは実績値, 2021年度以降は圧縮減容装置の運用開始時期を変動させた場合の想定値